

墜落繰返すオスプレイ 今年3度目の事故！

オスプレイの危険性がますます明らかに

以前から危険性が指摘され、今年に入っても相次いで墜落事故を起している米軍の垂直離着陸輸送機オスプレイが、今年9日にまたしても機体トラブルに見舞われ、米ノースカロライナ州のウィルミントン国際空港に緊急着陸するという事故を発生させました。

また、米国防省系の研究所の分析官が、2009年の米議会の公聴会で、戦闘の際に起こりうるトラブルを列挙して、オスプレイが墜落する危険性を証言をしていたことも明らかになりました。米軍はモロッコの墜落事故の原因を「人為ミス」とするのですが、同分析官は「オスプレイの場合は、パイロットの小さなミスが重大事故という結果をもたらすことは当初から明らかだった。」とNHKの取材に答えています。

民主党も前原政調会長が、このまま計画を進めることには「党として反対だ」、と言わざるを得ない状況にまでなってきました。全国知事会は、19日に受け入れ反対の緊急決議を全会一致で採択しました。

それでも配備強行？——日米政府——

しかし、米政府・米軍は、今年に入ってから起きたモロッコでの墜落事故や、フロリダ州での墜落事故が起こった後も、「機体の安全性に問題はない」の一点張りで、海上輸送中のこの危険なオスプレイを、明日にも岩国基地へ陸揚げし、計画通りに沖縄県の普天間基地に配備する考えを示しています。

日本政府は「配備自体は米政府の方針で、どうしろ、こうしろという話ではない」（野田首相）との立場を表明、国民の意見に耳を貸さずに、米国の方ばかりを向いて服従姿勢を示しています。

配備阻止のために沖縄県民が立ち上がっています！

いい加減にしろ！と抗議の声を上げなければなりません。「世界一危険な普天間基地」に墜落事故を繰り返すオスプレイを配備することは「県民の命を危険にさらし、県民に墜落と死の恐怖を押し付ける」（那覇市議会決議）ことであり、許されることではありません。県知事の「強行なら全基地閉鎖」発言をはじめ、沖縄県選出・出身国会議員すべての反対、沖縄県内すべての41市町村議会での反対決議という沖縄の民意をまたしても日本政府は踏みにじろうというのでしょうか。

沖縄県では、8月5日に県議会が主導して、オスプレイ配備反対の超党派の県民大会が開かれようとしています。東京でもこれに連帯した集会が開かれます。「本土」全国からも沖縄の声に呼応して、オスプレイ配備反対の声をあげ広げていきましょう。（2012. 7. 22）



オスプレイの事故映像

（動画サイト「You Tube」より）

沖縄だけではない！ 全国で低空飛行訓練

厚木基地でも訓練！ キャンプ座間でも!?

オスプレイが沖縄に配備されると、沖縄県で訓練が繰り返されるのにとどまらず、日本全国にある米軍機の低空飛行訓練ルートを使って、日本中でオスプレイが訓練飛行を行うことが明らかになっています。普天間同様、人口密集地にある厚木基地にもオスプレイが飛来し訓練を行うことになると考えられます。厚木基地は現状、岩国や三沢基地と行き来する低空飛行訓練をする米軍機の要の基地になっています。燃料の補給や機体の整備が行われています。回転翼機であり垂直離着陸機であるオスプレイですから、キャンプ座間のヘリポートを利用するようなこともないとも限りません。

座間市議会は、オスプレイの普天間配備と低空飛行訓練計画の撤回を求める決議を全会一致で可決しました。沖縄の県民が全力で訴えているオスプレイの危険性は、私たち神奈川の県民にとってもまったく同様です。オスプレイの日本配備に反対の声を上げましょう！

(2012. 7. 22)

MV22 オスプレイの低空飛行訓練ルート→
沖縄タイムスより



オスプレイ配備中止を求める署名にご協力を！

ピース・ニュースは、沖縄へのオスプレイの配備中止を求める署名を呼びかけています。全国から配備反対の声を結集して、オスプレイ配備を断固阻止しましょう。

請願項目：日本政府は、沖縄県民の命を危険にさらし、墜落と死の恐怖を押し付ける、
普天間基地へのオスプレイの配備をただちに中止すること

署名の呼びかけ文、署名用紙は、ピース・ニュースの下記ホームページからダウンロードできます。